

平成 25 年度

年 報

— 博物館はこんなことをやりました —



AZUMINO CITY TOYOSHINA LOCAL MUSEUM

安曇野市豊科郷土博物館

目次

I ようこそ安曇野市豊科郷土博物館へ 博物館の概要 1

- 1 開館からの略歴
- 2 当館の目指すところ
- 3 平成 25 年度・活動方針

V 調査研究や企画展覧会について 調査研究活動と企画展覧会の方針 9

- 1 市直営施設移行 2 年目に重点的に進めたこと
- 2 安曇野の自然・歴史・民俗・芸術に関して
- 3 各展覧会の企画と展示の方法に関して

II 博物館内部はこうなっています 運営体制 2

- 1 博物館職員の紹介
- 2 館内の施設
- 3 平成 25 年度予算

VI 資料センター・資料館と連携します 他施設との連携協力体制 10

- 1 各資料館の活動と博物館との関係
- 2 文化財資料センターとの協力体制

III 博物館が取り組んでいること 主な活動実績 3

- 1 入館者数と内訳
- 2 企画した展覧会
- 3 実施した講座・講演・説明会
- 4 寄せられたご相談等への対応
- 5 市民とつくる、友の会活動
- 6 学芸員実習など
- 7 館内外活動への取材と広報

VII 当館に寄せられたみなさまのお言葉 アンケートからみる外部評価 11

- 1 来館者アンケート
- 2 ご来館された方から寄せられた声

IV 所蔵している資料とその使い方 資料の管理と活用体制 8

- 1 収蔵資料数と主な内容
- 2 平成 25 年度に受け入れた資料の概要
- 3 所蔵資料を活用している具体例

VIII 博物館のこれから 目標とみなさまへのメッセージ 13

1 開館からの略歴

昭和 54 年 4 月	多くの文化遺産の継承を使命とする生涯学習の場として豊科郷土博物館が開館しました。翌年、登録博物館になりました。以来、収蔵している自然・歴史・民俗・芸術等の資料を収蔵展示するとともに、各種企画展示を開催してきました。友の会を核とした活動も活発に続いています。
平成 17 年 10 月	5 町村の合併により安曇野市が誕生しました。当館は財団法人による指定管理のもと、市唯一の総合博物館としての活動を継続してきました。
平成 24 年 4 月～ 平成 26 年 3 月	安曇野市の直営施設となり、市の主要文化施設として文化の発信と地域に根付いた活動を行い現在に至っています。平成 25 年度には、屋根とトイレを改修し常設展示を替えて、26 年 3 月にリニューアルオープンしました。

2 当館の目指すところ

郷土安曇野の文化財から自然・歴史・民俗・芸術と幅広い分野の資料を収蔵・展示することで、心の豊かさを求め、新たなる文化創造に向け、その土壌作りを目指しています。併せて、市民が参加する博物館として生涯学習の場を提供し推進することも大切な目標としています。

3 平成 25 年度・活動方針

安曇野市直営施設として、以下の 4 点を重点目標に博物館を運営してきました。

◆ 親しみやすくわかりやすい博物館を目指します

常設展示替えを契機に、展示内容や説明をより身近で親しみやすいものになるよう工夫しています。安曇野市全体がわかり、各地域に視野が広がる展示の実現に努めています。

◆ 各施設との連携を強め資料収集と保存を進めます

平成 24 年度に、新たに「安曇野市文化財資料センター」が設置されました。関係施設との連携を強め、資料収集と保存を進めるとともに新たな博物館展示資料として活用しています。

◆ 新しい来館者層へ向けた、さまざまな取り組みをします

特に小中学生が楽しんで見学や学習ができるよう、展示資料解説を新たに書き直し、クイズを考案しています。また、学校に出向き講座や展示を行い、博物館に親しむ機会を多くしています。

◆ 文化の中心として博物館から発信しています

市民のみなさんが参加し体験する機会を増やす方向で、展覧会の体験型イベントや現地見学会等を多く設営するなど工夫しています。常設展示替えでは博物館内に体験コーナーを設けました。



市内通所介護施設での出前展示



校庭に立てられた新田御柱（豊科北小学校）



1 博物館職員の紹介

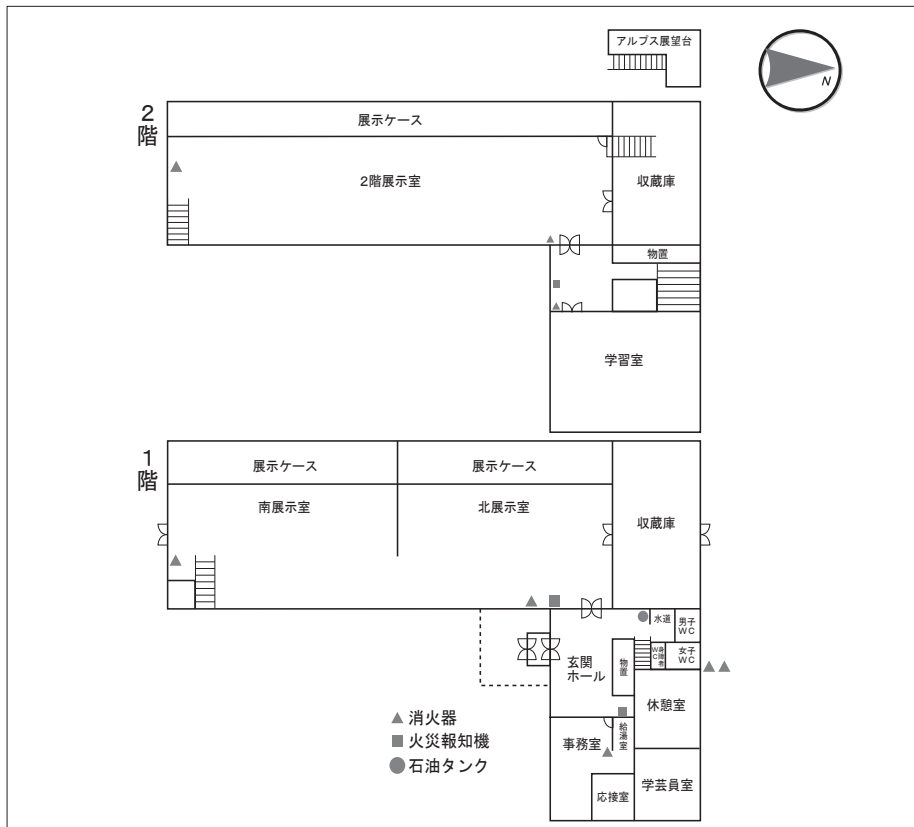
館長	百瀬 新治	博物館を総括し、運営全体をみています。学芸員と同様に、展示の企画や作業に加わり講座や学習支援も行っています。
学芸員	逸見 大悟	担当する展覧会を中心に展示の企画・実施をします。主に歴史等を研究調査し、予算や提出文書作成を担当しています。
学芸員	宮本 尚子	展覧会や館内環境整備を担当し展示や掲示を行っています。主に民俗等を研究調査し、収蔵資料等の受け入れや管理等を担当しています。
学芸員	水谷 優美	館内施設や展示品の保守点検を担当し、友の会活動の支援を行なっています。芸術に関する調査研究を進め、当館刊行物の作成をしています。
事務員	瀧澤 明子	外部との文書の作成や館の収支計算を担当しています。窓口でお客様の案内や入館者の対応をしています。
事務員	宮澤紀美子	窓口でお客様の案内や対応をしています。展示の実務的な作業や解説文の作成をサポートしています。

2 館内の施設

■敷地面積 2,016 m²

■建物（鉄筋コンクリート造2階建） 建築面積 747 m²（延床面積 1,020 m²）

■平面図



3 平成 25 年度予算

総額 約 4,800 万円

本年度は大規模改修のため例年より多くなっています。

1 入館者数と内訳

入館利用者総数	7,688 人	(平成 24 年度数 6,333 人 対前年度比率 121%)
有料入館者数	2,152 人	(平成 24 年度数 1,686 人 対前年度比率 128%)
児童生徒入館者数	404 人	(平成 24 年度数 331 人 対前年度比率 122%)

2 企画した展覧会

① 「第 29 回白鳥写真展」

4 月 6 日 (土) ～ 5 月 6 日 (日) 開館日数 28 日
 安曇野に飛来した白鳥の写真を公募し展示しました。
 出品者数 69 人 出品点数 123 点
 入館者数 897 人 1 日平均 32.0 人



あの世展 展示風景

② 「あの世展 ～安曇野から旅立つ四十九日～」

(夏季特別展)

7 月 13 日 (土) ～ 8 月 25 日 (日) 開館日数 38 日
 安曇野に伝わる死生観や地獄に関する考え方を諸資料を使って紹介し展示しました。
 入館者数 1,709 人 1 日平均 45.0 人



お祭り展Ⅱ 豊科交流学習センター「きぼう」での展示風景

③ 「安曇野のお祭り展Ⅱ

～よろず願いごと引き受けます一道祖神～」(特別展)

9 月 7 日 (土) ～ 10 月 20 日 (日) 開館日数 38 日
 安曇野に伝わる道祖神祭りや御柱・三九郎等を取り上げ道祖神への願いを具体的に展示しました。

入館者数 1,449 人 1 日平均 38.1 人

3 実施した講座・講演・説明会

1 博物館講座

① 「中房タイムトラベラーひと・温泉・微生物ー」講座

6 月 29 日 (土) 参加者 20 人

国天然記念物や登録有形文化財がある中房温泉周辺を現地踏査しました。

② 「古墳発掘調査見学会」講座

穂高古墳群 F9 号墳・堀金小林古墳見学

8 月 10 日 (土) 参加者 26 人

古墳の発掘調査現場見学を行い、周辺の古墳も含め現地学習をしました。



② 古墳発掘調査現地見学会

③「昔のくらしを体験しよう！」体験講座

7月27日(土) 参加者 19人

国の重要文化財「曾根原家住宅」を会場に、虫かごづくりやいろいろ生活の体験をしました。



③ いろいろ端で戦争体験を聞きました

④「授業に地域教材を活用する」講座

7月30日(火) 参加者 24人

市内小中学校の先生方が安曇野市内の博物館や史跡などを訪れ、授業に向け実際場で調査研究しました。

⑤「マイわらぞうりを作ろう」体験講座

7月31日(水)・8月1日(木) 参加者 21人

三郷及木学習会の方々を講師にぞうり製作を体験しました。



⑤ わらぞうりは素足に気持ちいいね

⑥「伝統食を楽しむ～道祖神祭りに何食べる～」体験講座

10月19日(日) 参加者 9人

安曇野で伝統的に伝わってきた道祖神祭りの日のごちそうを手作りして食べました。



⑥ 道祖神祭りのおごっつお作り

⑦「押絵で干支をつくってみよう～午年編～」体験講座

11月24日(日) 参加者 31人

恒例になっている干支の押絵づくりに親子で挑戦しました。

⑧「野鳥観察会 in 万水川」講座

第1回 野外観察 5月11日(土)

穂高三角島 参加者 17人

第2回 野外観察 11月9日(土)

豊科～穂高万水川沿い 参加者 16人

第3回 座学 1月18日(土) 参加者 11人

水辺を散策し、野鳥の生態と環境を観察学習しました。



⑧ 春と秋の野鳥観察会

⑨「古墳時代後期のシナノの国」郷土史部講座

第1回 座学 9月28日(土)

豊科公民館 参加者 76人

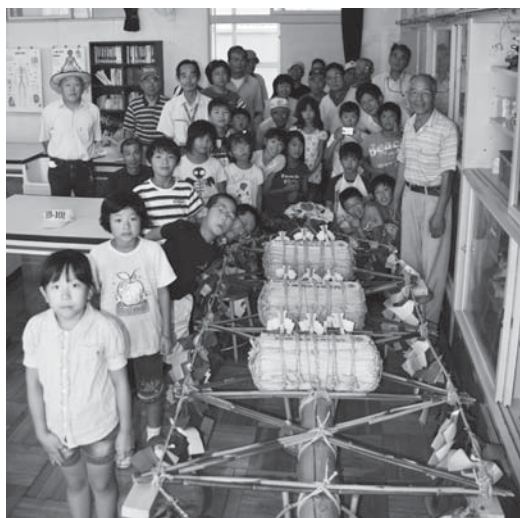
第2回 現地見学 10月26日(土)

飯田市・下伊那郡 参加者 42人

明科廃寺が建てられた時期(約1300年前)や、さらに古い時代の信濃国について、飯田・下伊那の古墳を訪ねて楽しみながら学びました。



2 「安曇野のお祭り展Ⅱ ～よろず願いごと引き受けます―道祖神～」(特別展) 関連企画



① 倉平御柱の飾りづくり(穂高西小学校)



② 民話を聞いて道祖神ぬりえをしました(三郷小学校)



⑤ 榎・住吉道祖神祭りのお囃子を聞きました



⑥ 新潟県の道祖神を実際に見学しました

① 「御柱に願いを込めて」

7月5日(金)～10月22日(火)

延べ参加者 752人

各御柱保存会の協力をいただき、市内4小学校(穂高西、豊科北、堀金、三郷)の児童が御柱を制作し、学校敷地内に願いを込めて立てました。

② 「道祖神に色をぬって願いごとをしよう！」

展覧会会期中 延べ参加者 1,069人

市内小学校低学年の児童に呼びかけて、道祖神民話の読み聞かせを行いました。読み聞かせ後、道祖神イラストのぬりえと各自の願いごとを書いてもらい、作品を展示しました。読み聞かせは「おはなしムーン」の皆さんにお願いしました。

③ 「おらほの好きな道祖神」

7月26日(金)～8月31日(土)

参加者 52人

インターネットによって市内の道祖神写真を公募し、その写真を会場に展示しました。

④ 「おみくじで『あなたの道祖神』を見つけよう」

展覧会会期中 イラスト応募高校生 19人

市内4高校、市外1高校に呼びかけ各々の道祖神をイメージしたイラストを作成してもらいました。そのイラストを組み入れたおみくじを、来館者に引いていただき実際に道祖神を訪ねていただけるようにしました。

⑤ 「木遣りとお囃子演奏会」オープニングイベント

9月7日(土) 参加者 88人

榎・住吉の道祖神祭りお囃子(おはやし)演奏と北小倉御柱立の木遣(きやり)唄を楽しみました。

⑥ 「道祖神に会いに行こう」現地見学会

9月29日(日) 参加者 27人

新潟県立歴史博物館・柏崎市立博物館他

10月14日(月) 参加者 21人

松本市立博物館・松本市内各地・他

特別展にあわせ、県外・市外の道祖神について現地で学びました。





⑦ ファイナルイベントでは実際の三九郎を体験しました



⑧ 基調講演「安曇野と道祖神信仰」

⑦ 「安曇野のお祭り展Ⅱ」ファイナルイベント

10月19日（土）参加者 109人
豊科成相八坂神社で小正月の道祖神祭り「三九郎」を立てて燃やす体験をして楽しみました。

⑧ 「道祖神が拓く安曇野の未来」講演・シンポジウム

12月14日（土）参加者 123人
倉石忠彦さんの基調講演とシンポジウムで、道祖神の意味や歴史と魅力を学び、安曇野の道祖神が持つ未来の可能性について考えました。



④ 豊科交流学习センター「きぼう」でのおみくじ展示

3 出前講座



① 穂高北小学校 出前講座

① 「昔の暮らし体験教室」

—授業に出かけていっしょに学習しましょう—

市内全小学校3年生 約900人参加
出前授業 市内小中4校 約560人参加
出前講座 市内外5回 約160人参加
要請に応じ、出前講座・授業を行い、学校と博物館の学習連携に力を注ぎました。

② 「企画展示説明—展覧会の見どころはこれ！」

全19回 延べ参加者 約110人
担当の学芸員が各企画展覧会のねらいや代表展示資料を解説しました。

③ 「常設展示説明—郷土博物館を楽しんでください」

全6回 参加者 191人
団体来館者のみなさまに館内案内や常設展示説明を行いました。



③ さよなら常設展ギャラリートーク



4 寄せられたご相談等への対応

数多くのレファレンス（問い合わせ）や調査相談がありました。94 件の問い合わせがあり、分担当してお答えしたり、記録に残す等の対応をしました。

5 市民とつくる、友の会活動

①各部会と会員数（ ）内は人数

絵手紙 (19) 押絵 (10) 郷土史 (37) サクラソウ部 (11) 山草 (26) 刺しゅう部 (6)
自然部 (113) 写真部 (11) 植物画部 (20) 書道部 (27) 水墨画 (5) 美術部 (29)

総計 12部 314人

②講座・学習会等の活動

各所で毎月 1～2 回の講座を催したり、自然探訪会や現地見学会を実施しています。友の会全体で 108 回の講座・学習会が開催され、10 回の館外研修がありました。

③展覧会の実施

全 9 回の展覧会が催されました。各部が合同で開催する総合芸術展を含めて、総計 2,119 人の観覧者がありました。

④全体活動

- ・視察研修 埼玉県長瀬（ながとろ）町方面
参加者 44 人
- ・美化活動 年 3 回実施 参加者総数 76 人
- ・会報発行 年 3 回



埼玉県長瀬町方面への視察研修

6 学芸員実習など

本年度は学芸員実習の希望者はありませんでした。博物館に新規採用の学芸員が配属されましたので、博物館実務や展示作業を通じた実技体験を重視した各種研修を実施しました。

7 館内外活動への取材と広報

展覧会情報と展示物の紹介、さらに体験講座や記念講演などの活動を各報道機関に周知しました。その結果、テレビでの報道が 7 件、ラジオ 12 件、新聞では関連記事も含め約 40 件、展覧会の感想など読者投稿が 2 件掲載されました。

インターネットのホームページとブログを通しての博物館からの発信が質・量ともに充実しました。



夏季特別展関連講座
「安曇野の『あの世』めぐり」



小学生のぬりえ作品



1 収蔵資料数と主な内容

平成26年3月31日現在の収蔵品数と主な収蔵品名は以下のとおりです。

■歴史資料	約 13,000 点	豊科町関係旧村文書・藤森桂谷文庫・小穴亀一文庫・旧吉野小学校教科書・南穂高村消防組資料・上ノ山古窯址出土資料
■民俗資料	約 1,700 点	農耕・養蚕・漁労関係資料・衣食住関係資料
■美術資料	約 300 点	小林章・藤森桂谷・井口香山・小川大系
■自然資料	約 5,300 点	動物剥製・昆虫標本・化石標本
■蔵書その他	約 7,000 点	

収蔵品総点数 約 27,300 点

2 平成25年度に受け入れた資料の概要

■竹内雄一氏	寄贈	上原良司の葉書	1 点
■増沢石材店様	寄贈	石像道祖神	1 点
■小池伯一氏	寄贈	化石	52 点
■倉石忠彦氏	寄贈	道祖神グッズ	17 点
■矢花正二氏	寄贈	8mm 映写機等	16 点
■内川丈夫男氏	寄贈	漁具	2 点

3 所蔵資料を活用している具体例

- 2階展示室及び1階展示室や館内各所で常設展示をしました。
- 収蔵品の中から企画展に関連した資料を多数展示しました。
- 体験講座や出前授業で実物に触れる機会を積極的に増やすなど、館外活用も活発に行いました。



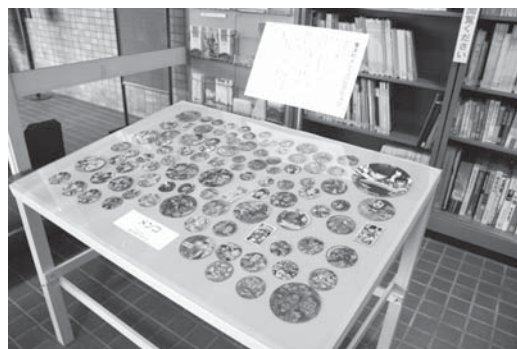
「おひさま道祖神」寄贈式典
(増沢石材店様より寄贈)



お祭り展Ⅱでの「道祖神グッズ」の展示
(倉石忠彦氏より寄贈)



生痕化石レプリカ公開記念展示説明会



玄関ホールでのメンコの展示



1 市直営施設移行 2 年目に重点的に進めたこと

- 従来の旧豊科町域中心の資料收藏や展示から、市内全体を網羅した調査研究と展示の充実に努めています。その具体化として、開館以来ほぼ同じ内容だった常設展示を「安曇野をめぐる水と私たちの暮らし」をテーマに安曇野市全域を対象とした展示に替えました。単年度での準備と実施でしたが、資料の調査研究を大事にしながら、来館者に親しみやすく、楽しみながら学んでいただける展示実現に向け、資料解説や展示方法を工夫しました。3月29日にリニューアルオープンすることができました。
- 平成24年度中に閉館した明科・三郷・堀金の歴史民俗資料館に保管收藏した資料について、新しい常設展示資料としてできる限り活用しました。今後も引き続き各資料館の資料の保存と活用に取り組んでいきます。
- 出前講座で力を入れている小学3年生対象の体験教室を、平成24年度に続き、市内全小学校で実施できました。それにより地域の資料を使った学習が統一的にできるようになりました。また、特別展の御柱立てを小学校内で実施するなど、学校と連携した活動を質・量ともに高めました。
- 夏季特別展「あの世展～安曇野から旅立つ四十九日～」では、仏教に関する資料や安曇野に伝わる葬儀等の姿とそこにみる死生観をわかりやすく解説し、あの世を疑似体験できる展示を工夫しました。
- 特別展「安曇野のお祭り展Ⅱ～よろず願いごと引き受けます一道祖神～」では、安曇野の代名詞とされる御柱立てや三九郎などの道祖神のお祭りを、実物資料で体感できるように再現展示しました。

2 安曇野の自然・歴史・民俗・芸術に関して

- 伝統行事や民俗儀礼を含め、市内各所で催されるイベントはできるだけ現地での調査や聞き取りに出かけ、記録としてまとめ残しました。
- 古文書の解説や活用について同好会等と連携協力し、埋蔵文化財調査にも協力することで、市内における歴史の実態解明に成果を得ました。
- 学芸員が専門分野として十分な取り組みのできていない自然・芸術については、市内外の研究者や制作者のご支援とご協力により、調査や情報収集等をできる限り実施しました。



現地調査した塚原巾上の三九郎（穂高柏原）

3 各展覧会の企画と展示の方法に関して

- ①企画内容や展示について先進的な取り組みが行なわれている博物館的施設を見学研修し、企画段階からの準備と実際の展示について、現場で担当者に直接教えていただき、研修を重ねました。
- ②祭りや行事等、かたちとして示すことの難しいものを展覧会として企画するに際して、実物資料や映像資料を使って展示し、祭りの雰囲気等を体感していただけるよう努めました。
- ③展覧会を見るだけで完結してしまう展示からの脱却を考え、市内すべてが博物館であるという意識のもとに、展示資料に関連する場所を訪ねることが出来る仕組みづくりを積極的に行いました。
- ④親しみやすく興味を持てる展示を目指して、展示説明文やキャプションの表現を、クイズや問いかけのスタイルにするなど、楽しみながら学べるものとししました。
- ⑤以上のように展示方法等を工夫・検討したことについては、常設展示替えて具体的に実現するように取り組みました。



1 各資料館の活動と博物館との関係

- ①閉館によりすでに資料が文化財資料センターに移管されている旧明科歴史民俗資料館及び、すでに閉館している旧三郷民俗資料館、旧堀金歴史民俗資料館の収蔵資料については、常設展示資料として活用しました。
- ②穂高郷土資料館と連携し、市内の全小学校へ「昔の暮らし体験教室」(出前講座)を行いました。郷土資料館の資料を中心に活用し、実際に触れる、動かすことに重点をおいて、資料館と博物館の職員が協力して実施しました。



昔の暮らし体験教室 (豊科東小学校)

2 文化財資料センターとの協力体制

平成 24 年度事業で、旧穂高学校給食センターを改修し、資料収集・整理、ならびに調査研究の場として「安曇野市文化財資料センター」を開設しました。

平成 25 年度は、前年に受け入れた斎藤嘉明氏の写真資料の整理にあたり、12,000 点におよぶフィルム資料をスキャニング、デジタル化しました。文化財資料センターは、設置の目的でもある市内の文化財等諸資料を収蔵する拠点として、博物館は、その資料の活用と教育普及活動の拠点としての役割を果たす努力をしました。

両者の緊密な連携による事業展開が本格化し、文化財資料センターでは、旧明科歴史民俗資料館の収蔵資料を中心に整理作業が順次進められています。この成果が博物館の各種展示や学芸研究に具体的に活用できるよう、共同での打ち合わせや作業を多く設け、協力体制をより強固なものにしてきました。常設展示替えに向けて資料の活用に取り組み、結果として相当数を展示し紹介することができました。



整理保存した斎藤嘉明氏の寄贈資料



市内高校社会科授業での見学



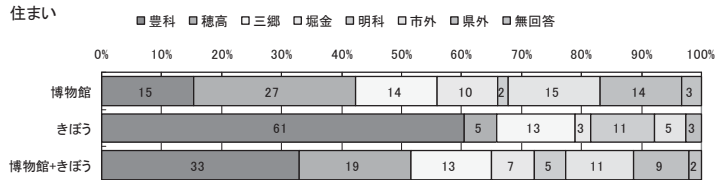
お祭り展Ⅱオープニングでの北小倉下区の木遣り



「安曇野のお祭り展Ⅱ～よろず願いごと引き受けますー道祖神～」で実施した来館者アンケートをまとめました。

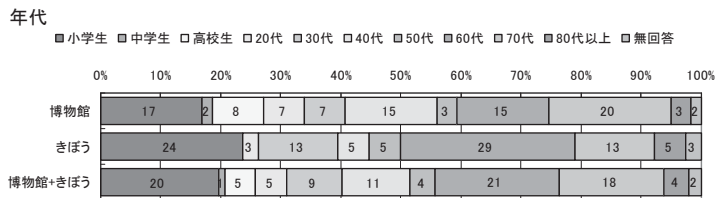
1 来館者アンケート（回答者数 97人）

Q1 どちらからお出でいただきましたか？



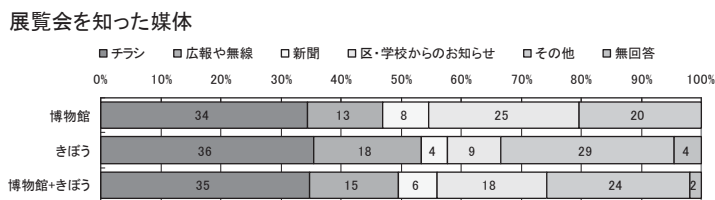
田尻南木戸御柱の飾り作り
(堀金小学校)

Q2 年齢はおいくつですか？

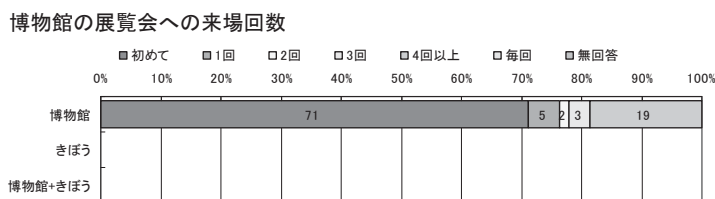


お祭り展Ⅱの会場作り
(一日市場東村御柱)

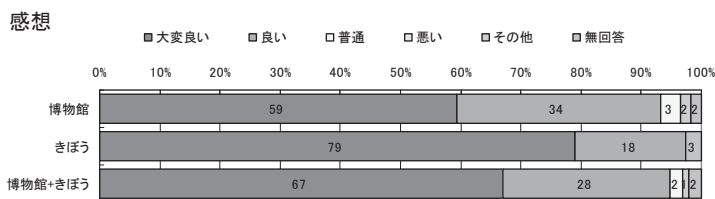
Q3 どちらでこの展覧会を知りましたか？



Q4 博物館には何度目のご来館でしょうか？



Q5 展覧会をご覧いただいた感想はいかがでしたか？



お祭り展Ⅱで展示した祭りの映像を紹介するタブレット

2 ご来館された方から寄せられた声

展示をみていただいていたでしょうか？

- 昔の風景が思いうかんでいいと思いました！
- いろいろな物があり、次から次へと見たくなりました。
- 工夫されている。参加型の取り組みをもっと取り入れたらさらに盛り上がると思う。
- いろいろなものがそろっていて、せつめいもくわしいから。
- 昔の人の思いが石という神にまつた思いつき、が現在わかったことです。
- 高校生の道祖神画は本当に楽しめました。
- めずらしい物や、つまみたい物がいっぱいあって、とてもたのしかったです。
- さいしょはこわかったけど、ちょっとはいたら、すぐなれた。
- 郷土博物館があるのを知らなかった。孫のぬり絵を見に来て知りました。もう少し皆に知ってもらうための宣伝をしたら良いのでは。
- 県外から去年引っ越してきたのですが、安曇野のことがよくわかって為になりました。
- 館長さんやスタッフの方々のご努力により、安曇野の歴史や文化について学びなおすことができ良かったです。今後、斬新な企画をお願いいたします。
- 身近な存在でありながら、知らないことが多すぎました。御柱・道祖神、勉強になりました。タッチパネル等、工夫されていて非常に良かったです。
- 安曇野へ住んで2年半が経ちましたが、道祖神は引っ越してきてから不思議な存在でした。色々勉強になりました。
- 私の地区では子供の頃、ここに展示されている御柱を立てた祭事は行われず、今も行われておりません。非常に興味深く拝見しました。目録とはいませんが資料集にまとめたものを欲しいと感じました。
- 長年住んでいる人がそもそも“道祖神”とは？が疑問であった。各地区の紹介だけでなく、どこにあり、その成り立ちは、まで紹介いただければなお良い。道祖神マップやスマートフォンとの連携を図り観光客が道祖神を巡りたくなる企画を希望します。
- 写真だけでなく、実際の祭りに使用する道具や実物を借りての展示、また実際に祭りを撮影し、それを



上原道祖神の色塗りの展示

タブレットで自由に見ることができるなど、見る人が楽しめ、かつ勉強になるとても良い展示でした。ありがとうございました。またこのような展示を楽しみにしています。

- 安曇野にこんなにたくさんの道祖神があることにびっくりしました。地域の守り神として、大切にされていたことを知り、感銘を受けました。
- 感動しました。これだけの道祖神があることにおどろき、今後來た時一つずつでも訪れてみたいと思います。
- (豊科)北小の運動会で新田地区の御柱を間近で見てとても感動して、それがきっかけで見に来ました。



松本市立博物館とお祭り展Ⅱで連携しました



安曇野市直営の博物館として再スタートし 2 年目となる平成 25 年度、ここまでにお示しした内容で事業を進めてまいりました。常設展示替えと安全確保のための施設改修など、大きな事業もありましたが、期限内に無事完了できました。みなさまから寄せられたお声や、数値として記録に残る成果などから確かな手応えを感じ、今後の活動につながる手がかりをつかむことができつつあります。しかし、その反面まだまだ至らない点や検討課題も明らかになってきています。

来年度も、市民のみなさまの博物館として親しまれ、わかりやすく充実した博物館活動を目指して、引き続き努力してまいります決意です。

特に次の点に力を注ぎたいと考えています。

今後とも厳しくも温かく、当博物館とお付き合いいただきますようお願い申し上げます。

館長 百瀬新治

親しみやすく充実した文化の発信源として、博物館は進化します

★参加し体験できる親しみやすい博物館に

博物館ならではの専門的な内容をわかりやすく解説・展示し、市民のみなさまにより身近にとらえていただける活動に取り組んでいきます。また、多様なお客様に対応した参加型展示（クイズや体験コーナー）を複数用意して、気軽に楽しんでいただけるように努めます。

★展示を出発点に市内各地を訪れることができる発展性のある博物館に

市内各地の特徴ある風土や歴史を展示し、実物の所在地や季節による見どころ等を案内するインフォメーションコーナーを設けます。それにより、博物館を拠点に市内各所へ宝探しや探検調査に出かけられる快適な環境をつくります。

★頼りがいがあり訪れがたいもある博物館に

十分な調査研究に基づいた魅力的で満足度の高い講座や学習会の実施に努め、問い合わせや依頼にも丁寧に対応します。特に日常業務の充実に努めます。



安曇野のお祭り展Ⅱ～よろず願いごと引き受けます一道祖神～
「豊科交流学習センターきぼう」ホールでの展示





三郷小学校に立てられた一日市場上町御柱

平成25年度 年 報

— 博物館はこんなことをやりました —

発行者 安曇野市豊科郷土博物館

〒399-8205 長野県安曇野市豊科4289番地8

TEL 0263-72-5672 FAX 0263-72-7772

公式ブログ <http://toyohaku.jugem.jp/>

発行日 平成26年 5月15日
